

熊野川を語る会 議事骨子

開催日時 平成 18 年 1 月 15 日 (日) 13:30 ~ 16:00
 開催場所 熊野川総合開発センター 大研修室
 出席者 担当委員 椎葉委員 (進行役)、瀧野委員、木本委員、山本委員
 同席委員 清岡委員、高須委員、中島委員、橋本委員、古田委員、吉野委員
 意見発表者 北正一氏 (新宮市熊野川町)、三枝孝之氏 (同左)、中村八十八氏 (同左)、
 下西幸男氏 (田辺市本宮町)、坂本勲生氏 (同左)、岡本光弘氏 (熊野市紀和町)

「熊野川を語る会」を開催し、新宮市熊野川町、田辺市本宮町、熊野市紀和町を代表する方々による熊野川との係りや地域の自然、歴史・文化、産業、地域振興策等についての意見発表、代表者および傍聴者との意見交換を行った。議事骨子は以下のものである。

1. 熊野川懇談会について

- ・ これまでの河川法の改正の流れ、熊野川懇談会の設立の主旨について説明が行われた。

2. 熊野川を語る会の主旨について

- ・ 熊野川流域で「語る会」が開催されるに至った経緯、懇談会の考え方について説明が行われた。

3. 自己紹介・意見交換

<主な意見>

(1) 地元代表者による意見発表

- ・ 瀨峡の玄関にあたる玉置口に住んでおり、家は 5 代目、代々筏流しなどの川の仕事をしており、父親までは団平船の仕事をしてきた。現在は観光民宿、観光和船等を営んでいる。瀨峡付近は民有林が保安林となっており、自然がそのまま残されている。最近の水の濁りがひどく、1 年くらい濁りが取れないことがある。昔は川底が見えたが今では 1 m 程度の深さまでしか見えない。水の濁りの改善を望んでいる。また最近、ブルーギル等の外来魚やカワウが多く見られる。アユなどの生態への影響が心配である。ずっと舟に乗ってきているので、川が命であり、川の恩恵を十分受けているが、台風時には対応で 2~3 日間ほど徹夜が続く。平成 16 年には 4 回ほど家が浸かった。特にダムが出来て被害が多い。ダムの放流量が 5000 トン~6000 トンを超えると 2 階の床上まで浸水する。放流操作の影響で水位が極端に変化するので、ダム放流を階段状に行うのではなく緩やかにしてほしい。台風の時には進路が事前にわかるので予備放流をもう少し早くしてほしい。また、放流の指令を名古屋でやっているそうなので局地的な大雨に対応できるか不安である。川の話ではないが、道路が狭く不便なので待避所の整備を進めてほしい。【北氏】
- ・ 熊野川町の西敷屋で農業をしつつ、廃校を活動の拠点にして、若年層を対象とした体験学習活動を実施している。懇談会の委員には学識経験者が多いが、住民の生活にいかに関わりつづけるか、住民の視点で川をどうするか考えてほしい。また地域の人々の想いが届くよう地域の人を会に入れた体制を作してほしい。10 分程度の話で住民の意見を聞いたと言われても納得できない。川を人間の体でたとえると血液にあたる。丈夫な体は丈夫な血管ときれいな血が必要であるが、今の熊野川は不健康な状態。ダムで水が濁り山地は崩壊している。これが世界遺産にふさわしい川か疑問である。ダムを取り壊すことを前提に検討を進めてほしい。川を良くする事は山をよくすること。畑を良くする事。川を切り口に地域の人々が住みやすい環境をいかに作るかがこれからの課題である。一住民として出来ることは汗を流しながらでも取組んでいきたい。【三枝氏】
- ・ 熊野川町日足で 27 年住んでいる。越してきて 1 年後に初めて洪水の被害にあった。それ以降何度も被害にあっており、平成 16 年には 2 度も浸水した。十津川と北山川が合流しそこに赤木川がぶつかるため日足地区では水位が上がりやすい。引越せばよいのだが、ここの景観がすばらしく住み続けている。日足ではここ何年か「スズキ追い漁」を行っている。日足あたりまで 1 m 位のスズキが上ってきており、かろうじて昔の自然が残されている。現在日足には道路計画があるが、その橋脚等で流れが変り水害が増えるのではと懸念している。昔は川沿いに穴を掘ってゴミを燃やしていたが、今は焼却炉が出来たので川を汚すことが少なくなり、川沿いには桜を植えている。これからもここに住み続けていきたいので、住民に優しい、住民意見を反映した道路整備、河川整備を望みたい。【中村氏】
- ・ 山、川、海は全てつながっており、全てが大事である。最近では獣害が多いのでイノシシやシカを取ることに熱中している。また日本ミツバチを飼育したり、夜は谷を回りウナギ採りをしたりと、自然が好きでいつも自然の中で過ごしている。世界遺産登録前に選挙が続いたが、誰も熊野古道に熊野川を含めた話をしなかった。その当時熊野川は「住民熱意の低さ」や「川」の世界遺産登録の事例が無いという二点で登録されていなかった。熊野川を世界遺産に登録しようということで新聞などに投稿し、幸い新聞でもとりあげられ、熊野川が追加登録に至った。さらに、熊野川の水を何とか増やそうと、町会議員に立候補し、当選後町に働きかけて現在の維持流量として 2.4m³/s 流してもらえるようにした。さらに、世界遺産の川として 2.4m³ はあまりにも少ないので、現在、せめて水量を倍にしようと署名活動を行っている。この「語る

会」についてはただ開催するだけでなく、何か結果を残していただきたいと思う。台風時においては、ダムの操作で降雨後すぐには放流がなく、後で一気に放流される。予備放水を行うなどのシステムがあれば水害の発生がまったく違ったものになるのではと思う。【下西氏】

- ・熊野川はこれまで川の道として多くの恩恵を地域にもたらした。江戸時代においては、お付の者と合わせて総勢90名程度の巡検衆が34艘の川舟を利用したという記録がある。その際には川の整備とともに道路整備も行われるなど様々な人足動員が必要であった。また、文政年間にあるゆぎょう上人が来た際には、舟、カゴが準備され休憩所も設けられた。また、聖護院の宮が来られた際にはお付の者が1000人来たため、食事等の準備が大変であった。天保8年に巡検衆が来た時にはこの準備で舟70艘人足600人の人足が必要となった。また熊野川は昭和30年頃までこの地域の重要な交通路であり、山で取れたものを新宮へ運び、帰りには醤油や酒などが運ばれた。

また、洪水の歴史については、嘉永元年、明治22年(十津川大水害)、昭和8年(萩の大洪水)、昭和28年(1.18水害)等の被害が記録されている。昭和37年からはダムが完成したため、本宮町の熊野川には水がない状況となっている。今の熊野川は死んでいる。元の川に戻すためには、ダムの放水の確保が重要。ゆくゆくは本宮大社の旧社地から、川下りの復活を図りたい。環境整備にあたっては、いろいろなことを地域住民から聞きながら進めて欲しい。【坂本氏】

- ・紀和町小舟は十津川水系と北山川水系の合流点にある。川には昔から愛着を持っているが、アユが小さくなるなど、ダムのせいで川は変わったという印象を持っている。このあたりでは昔は川原で稲を干したり稲こきをしたりするという文化があった。近年では河床が徐々に低下しており、平成16年の台風では護岸が削れ大変な被害が出た。このあたりは、十津川が増水すると北山川の水が堰き止められ水が溜まり、後でゴミの処理が大変となる。一方で北山川が増水すると急流になって梅の木などが流出してしまう。何とかダムの水を早めに出すなどして水害低減のため調整できないのだろうか。ダムが無ければこのような状況にならなかったのではと思っている。ダムと住民の調和が重要であり、現在、漁協で流域住民の署名を集め、要望書を流域3県の知事に提出している。「ダム放水 止まりて細き アユの川」【岡本氏】

(2) 意見交換

- ・ 外来魚が増えていると聞いたが、どのあたりで増えているのか教えてほしい。(瀧野委員)
外来魚が増えている場所は瀨峡の周辺、玉置口のあたり。アミを投げるとブルーギルやブラックバス、アユカケに似た魚がよくかかる。(北氏)
ブラックバスなどは池原ダム、七色ダムから下へ流れて来ている。熊野川は流れが速いので繁殖は行われていない。上流を含め魚類の生息状況を再度把握する必要がある。アユカケに似た魚はギギである。(瀧野委員)
- ・ ダムが出来ると河床が低下するのが一般的であるが、本宮町で河床が上がっているのは何故か。(木本氏)
支川からの土砂流入が一因ではないか。必要に応じて河床掘削が必要では。(下西氏)
ダムの放水がカギ状に流量が変わるので堆積が起こるのではないか。今は自然な流れではない。(中村氏)
- ・ 江戸時代には、日足に関所があり、川舟1艘100文の通行税を取り、これで暴れ川である熊野川の整備をまかされた。また本宮大社の下流には巴が淵と呼ばれる大きな淵があったと記録に残されている。(山本委員)
- ・ 熊野川では川の濁りが問題となっているが、支川の濁りの状況はどうか。(高須委員)
本宮あたりの熊野川では、ダム放水により濁りが続く。濁りがとれるまで2週間程かかる。支川は道路整備直後に川は濁るが、普段は清流である。(坂本氏)
瀨峡ではダムの放流口に近いので放流時にはすぐに泥水が流れる。下流に行くと澄んでくる。また水温変化もすぐく、アユの成育が悪いえ味もまずい。筏流しで増水すると水温が下がりアユも釣れなくなる。(北氏)
- ・ 熊野川流域では過疎か、少子高齢化が進んでおり、地域を維持できるのか。また今の子供たちは、熊野川に愛着を持っているのか。(橋本委員)
御輿川での水遊びの際に地元の子供は平気で水を飲む。熊野川はドロが堆積して汚れている。二津野ダムは出来て50年、かなり土砂の堆積が進んでいる。発電しても泥水しか出てこないなら、発電をやめてほしい。(下西氏)
地区では高齢化が進み機能麻痺の状況。すでに高齢社会ではなく、老人社会となっている。川の仕事、山の仕事が無く、これ以上さびれていくようで寂しい。(北氏)
この付近ではダムの放流があると1ヶ月は濁りがとれない。支流では川で遊ぶが、本川では子供たちは泳げずプールを使っている。現在は、子供たちが川での原体験を経験できるよう様々な活動に取り組んでいる。(坂本氏)

(3) 一般傍聴者の意見聴取

- ・ 熊野川には関心が高い。川沿いの廃田を活用して洪水と戦いながらナシ園等を経営している。昭和28年の洪水で土砂が流れて熊野川が埋まってしまった。その前の川はもっと表情のある川であった。熊野川のあるべき姿について議論してほしい。河床を下げて洪水を防げばもっと人が住めるようになるのではないか。(勝山氏)
- ・ 古道案内で熊野川を見せると皆すばらしいといってもらえるので、出来るだけ熊野川のよさをアピールしている。昔テレビの撮影で来たプロデューサーに「熊野川で誇るべきは川原にある。日本でも有数の川原である。」といわれたことがある。そういわれて見ればこの川原はすばらしい。ただ残念なのは水量が少ないことである。(佐古氏)

以上